

亘理町のしゅんぎくは昭和47年に逢隈地区で試験的に導入したのが始まりだ。当初は生産者2名、栽培面積20㍍で始まり、現在は生産者65名、面積7㍍まで拡大している。

同地区の横山長男さんはしゅんぎく7㍍の施設で栽培に取り組んでいる。イネの育苗ハウスの遊休期間を有効利用するために始めた。「軽いため、年齢や性別を問わず栽培できる野菜。難しい技術を必要とせず、新規就農者にも向いている」と栽培のメリットを語る。

横山さんは「おいしいしゅんぎくを栽培するためには、10～15cmほど間隔を空けて播種し、太く育つように間引きが必要だ」と栽培のコツを語る

町内のしゅんぎくは、仙台・京浜市場に出荷しているほか、町内の飲食店では、天ぷらそばやしゅんぎくパウダーをかけたソフトクリームなど様々な料理を提供している。

【記事提供】 亘理町農業委員会

しゅんぎくハウス内の横山さん



出荷調整したしゅんぎく

